

会務基本方針

クラブに活力を 地域にロータリーを



会長



幹事

会長 新藤 信之
幹事 須崎 八朗

島田会長エレクトの突然の降板により、はからずも会長を受けることになりました。既に水面下では次の年度がスタートしていた時期でもあり、各々の委員長には次年度へ向けての「思い」がそれなりに醸成されていた時期でもあったと推察されますので、それらを尊重し、基本的にはそれまでの流れを受け継ぐこととしました。従って、クラブの目標は「クラブに活力を、地域にロータリーを」とし、委員会組織構成もそのままとしました。

我がクラブは創立17年目を迎えます。今年3月1日に特別諮問委員会の委員長として20周年に向けたクラブのあり方についての答申書をまとめ、会長に提出しました。その後理事会、全体協議会で審議され、答申の中での現状認識と基本方針についてはクラブ会員の基本的なコンセンサスを得たものと理解しています。

従って、私の会長としての役割は20周年に向けた継投的役割であり、答申書で提案した事業活動とクラブ運営に関する項目について総意を形成すべく、1年間を通じ試行錯誤しながら、協議と実行を重ね検討することであると心得ます。

「ロータリーの仕事をするのは会員であり、ガバナナーでも会長でもない。…草の根レベルから立ち上がるボトムアップで働くことをお願いするだけです」=2002年国際協議会でのビチャイ・ラタクルR I会長スピーチ要旨から=と要請された手法を奨励し、会員一人一人が自分の職場・地域社会・国際社会のあらゆる場面で「慈愛の種を播く」機会を掘り起こし、その機会を会員相互で共有しながら、20周年に向けクラブを育てていくことが今年度の最重要課題と考えます。

以上の、会員の内外の（親睦・奉仕）活動へ向けた一体感と、コミュニケーションの醸成を実現するための「プロセス」と「しくみ」を作るために、例えば、

1. 「クラブに活力を」に関するものとして、
 - 1) 月1回の全体協議会（「対話例会」）を開催し、情報伝達と合意形成の協議を行う。この日は全員ホームクラブ出席を目指す。情報を共有するため、会員／役員／委員会の内外の会合・活動状況を報告し合う。協議会を必要とする場合は様々な意見を汲み上げるべく、内容を予め会員に伝える。
 - 2) 会員一人一人の意見を吸い上げるために「御意見箱」を設置する。
 - 3) 「炉辺会合」を活用する。特に定期的な夜の「ノミニュケーション」を開催する。
 - 4) 「趣味の会」を奨励し、支援する。
2. 「地域にロータリーを」に関するものとして、
 - 1) 1委員会だけでなく多くの委員会（会員）が参加する奉仕事業を立ち上げる。
 - 2) その中から「こぶしロータリーの顔」となる会員全員参加型の奉仕事業をみんなで育ててゆく。

一人一人がクラブで、職場で、
地域社会で、国際社会で

「慈愛の種を播きましょう」!